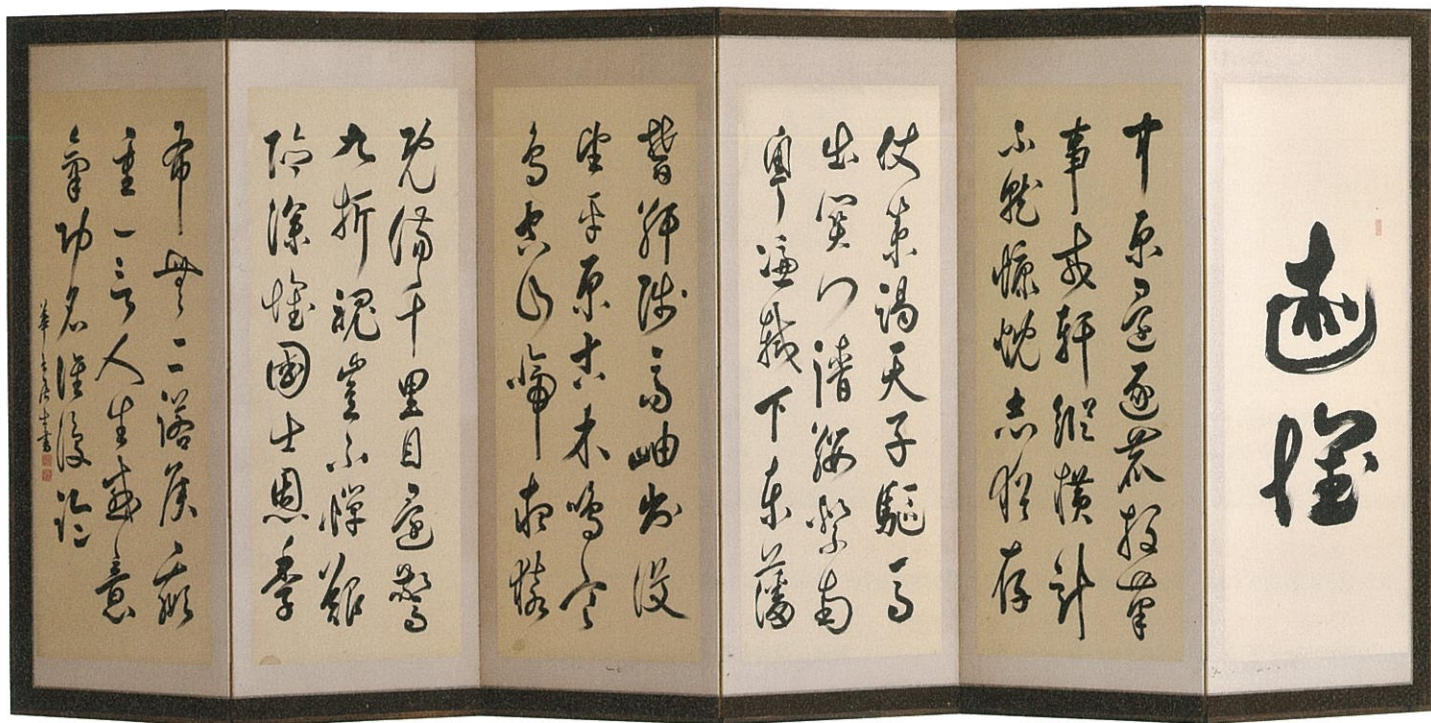


佐和華谷展

さわ かわく

Sawa Kakoku

銀の道の文化人



述懐

作 魏徴

中原 還鹿を逐い
筆を投じて 戎軒を事とす
縦横 計就らざるも
慷慨 志猶存す

策を仗つて 天子に謁え
馬を駆り 関門を出づ
纓を請うて 南粵を繋ぎ
軾に憑りて 東藩を下す

鬱紆として 高岫に陟り
出没して 平原を望む
古木 寒鳥鳴き
空山 夜猿啼く

既に千里の目を傷ましめ
還九折の魂を驚かす
豈艱險を憚らざらんや
深く 国士の恩を懐う

季布 二諾無く
侯嬴 一言を重んず
人生 意気に感ず
功名 誰か復論せん

原田屋莊太郎
此節他行
好文字由

伊能忠敬
「測量日記」

〔天意〕
原田屋の莊太郎(佐和華谷)は
この時、文字を好む(字問を好む)ために
外出していた(訪問したが会えなかった)

[開館時間] 9:00~17:00 (10日のみ15:00で終了)

会場/みさと館 3F 多目的室 邑智郡美郷町粕淵 168 【入場無料】

◎銀山街道講演会 日時/平成29年3月4日(土) 13:30~16:00 会場/みさと館 1F 町民ホール

◎江心会書道作品展示 日時/平成29年3月4日(土)~5日(日) 9:00~17:00 会場/みさと館 3F 研修室

主催/美郷町教育委員会 後援/江心会 特別協力/石見銀山資料館

お問い合わせ/美郷町教育委員会 〒699-4692 島根県邑智郡美郷町粕淵 168 TEL.0855-75-1217 FAX.0855-75-1386

2017年3月4日 | sat | 土 | — 3月10日 | fri | 金 |

佐和華谷展

1749

— 1831

Sawaya Karakawa

— 銀の道の文化人 —

佐和華谷は、寛延2年（1749年）沢谷村九日市に生まれました。

儒学者の頼山陽と交わり、画を中林竹洞に学びました。

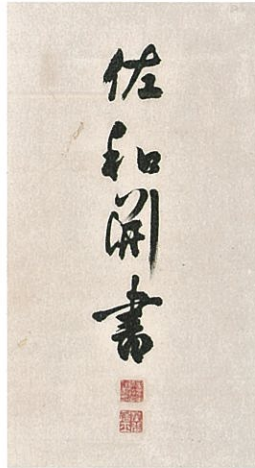
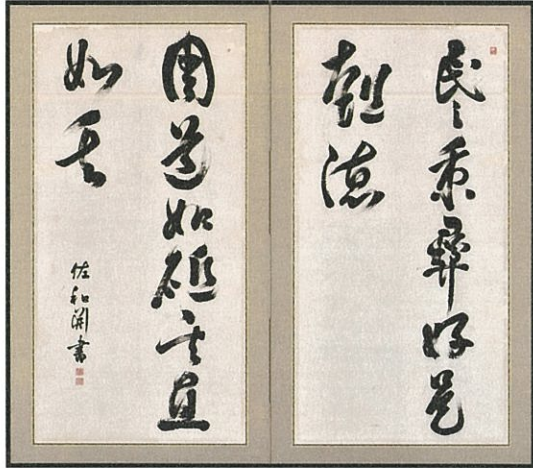
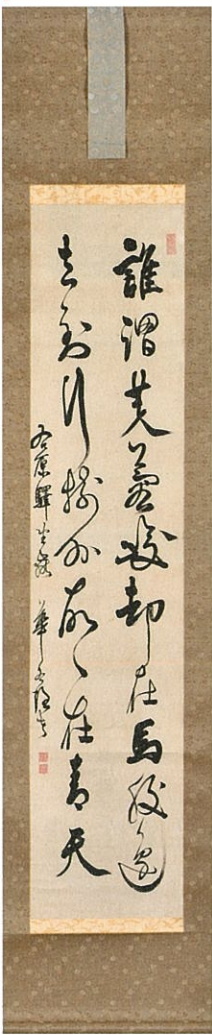
寛政3年（1791年）石見国浜田藩藩校長善館の開校の際には、招かれて講義を行いました。

当時、文化人としては非常に高名で、文化8年（1811年）、日本地図作製のため、測量に現地を訪れた伊能忠敬は、華谷を訪ねましたが会う事はかなわず、残念であった心境を日記に記しています（表面記載）。

天保2年（1831年）2月22日に死去しました。享年83歳。

名は淵。通称は莊太郎。別号に莘齋（しんさい）、五鹿園、鹿洞などを使用していました。

このたび、その功績をたたえらるとともに町内の郷土の偉人に脚光を当て、誇りのもてる郷土づくりにつなげていきたいと思います。



1. 誰謂芙蓉投 却在馬腹偏 去至行外 古古在晴天
誰か言う芙蓉投ずれば 到って馬腹偏に在り去るに至り杯外を行く 故故晴天に在り(自作の詩と推定される。)
2. 右/詩経 大雅 烝民 「民之秉彝、好是懿德」 左/詩経・小雅 大東 「周道如砥、其直如矢」
民の彝(い)を秉(と)る、是の懿(い)を好む 周道は砥の如く、その直きこと矢の如し
3. 華谷の書を示す署名。「佐和開」とある。他に、五鹿園、佐和淵、華齋等。落款も多数ある。

会期中特別行事

講演 銀山街道講演会

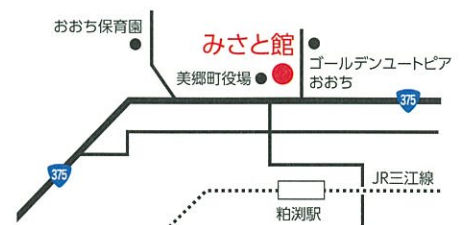
日時 | 平成29年3月4日(土) 会場 | みさと館 1F 町民ホール

- 13:40~ 講演1 「銀山街道 今も息づく歴史遺産」
講師/会下和宏氏(鳥根大学准教授)
- 14:10~ 講演2 「古文書から読み解く街道の歴史」
講師/仲野義文氏(石見銀山資料館館長)
- 15:00~ 講演3 「石見銀山~輝きをふたたび~」
講師/田中義昭氏(鳥根大学元教授)

江心会書道作品展示

日時 | 平成29年3月4日(土)~5日(日) 9:00~17:00
会場 | みさと館 3F 研修室

江心会を中心とした書道作品展示。



交通案内

JR出雲駅から国道9号線で大田市方面に向かい、国道375号線経由。車で1時間30分。
JR大田市駅から国道375号線経由。車で20分。

美郷町教育委員会

〒699-4692 鳥根県邑智郡美郷町粕洲 168
TEL.0855-75-1217 FAX.0855-75-1386